

基本構想素案

令和8年 6 月

計画の全体像

序論

第1章 計画策定にあたって

1. 計画の背景と目的
2. 計画の構成と期間
3. 他の計画との関連性

第2章 現状と課題

1. 社会動向
2. 築上町の現状
3. 住民アンケート調査結果
4. 第2次総合計画振り返り

基本構想

第1章 町の目指す姿

1. 築上町の将来像（基本理念）

第2章 まちづくりの方向性

1. 6つの基本目標
2. 施策体系イメージ

基本計画

（予定）

- ・分野横断的プロジェクト（総合戦略）

- ・基本目標 1

分野 1

分野 2

.....

- ・基本目標 2

分野 1

分野 2

.....

～以下基本目標ごとに続く～

1. 築上町の将来像（基本理念）

築上町の未来に向けたあるべき姿や進むべき方向性の指針とするため、まちの将来像を次のように定めます。

まちの将来像

みんなの挑戦が 幸福の好循環を生むまち 築上町

将来像に込めた思い

本町はこれまで “自然と歴史・文化を育む”ー心と体の健康を求めた『豊かな生活の場』づくり を第1次・第2次総合計画の将来像に掲げ、その実現に向けて20年間まちづくりに取り組んできました。海もあり山もあるこの豊かな自然と歴史・文化は次世代へつなぎ、守るべきこの町の財産です。

しかし、今、人口減少が進行し、これまでの「拡大・成長」する社会から「縮小」する社会を前提としたまちづくりへの方向転換が求められるなか、持続可能なまちづくりを進めるために、私たちに求められているのはこれまでの良さを守り続けることだけにとどまらず、「これまでどおり」から一歩踏み出す勇気と新たな「挑戦」です。この将来像は、行政だけでなく、子どもから若者、高齢者までの住民一人ひとり、そして企業や団体など、まちに関わるあらゆる人々の挑戦が、町全体の幸福を生み出す原動力になることを表しています。行政は、自らも挑戦するとともに、こうした多様な主体の挑戦を後押しし、誰もが挑戦できる環境を整える役割を担います。

この一つ一つの挑戦が、地域に新しい活力や安心を生み、その活力がまた次の挑戦を後押しし、それが住民の暮らしの安心や幸福につながる。そしてその幸福がまた次の挑戦を呼び起こすー。この町全体に「幸福の好循環」が生まれることで人口減少下にあっても子どもから高齢者まで住民誰もが心豊かに暮らし続けられるまちを目指します。

将来像実現のため、住民と行政が手を取り合い「対話」を重ね、多様な主体とも連携し、みんなでつくる一人ひとりが主役の共創のまちづくりを進めます。一人ひとりの挑戦が積み重なって町全体が活気にあふれ、10年後は住民誰もが「このまちが好き」で、「住み続けている」ー。このまちらしくあり、このまちの良さを誰もが実感できる、住民の笑顔と魅力にあふれる「築上町」をつくります。

1. 6つの基本目標

築上町の将来像を実現するため、6つの基本目標を設定し、まちづくりを進めていきます。

基本目標1 くらし

地域のつながりの中で、子どもを育み、誰もが笑顔で自分らしく暮らし続けられるまち

- 子どもは地域の宝です。第1次総合計画から掲げている「築上町は子どもの生命を護ります」の理念を継承し、地域・学校・行政・各種団体が連携した見守りや子どもの居場所づくりなど、地域ぐるみで子どもの成長を支え、安心して子どもを産み育てられる環境をつくります。
- 妊娠・出産期から子育て、健康づくり、介護予防、医療・介護まで、人生のどの段階でも切れ目なく寄り添う伴走型の支援を充実させ、誰もが安心して暮らし続けられる体制を守ります。
- 高齢化が進み介護や支え合いのニーズが増える中、住民が主体となって運営する身近な集い・交流の場を町内各地に広げます。高齢者も障がいのある方も、住み慣れた地域で生きがいと役割を持ち、笑顔で暮らし続けられる地域共生のまちをつくります。

基本目標2 まなび

子どもから大人まで学び続けられる環境の中で、互いに認め合い、地域への誇りを育てるまち

- 義務教育9年間を見通した小中一貫教育のもと、確かな学力と、新しい時代を生き抜く力を育みます。本町の豊かな自然や歴史、人とのふれあいを生かし、町ならではの特色ある教育を充実させ、一人ひとりに応じたきめ細やかな指導を進めます。
- 子どもから高齢者まで、誰もがスポーツや文化芸術に親しみ、生涯にわたって学び続けられる環境づくりを進めます。整備した図書館を生涯学習と交流の拠点とし、世代を超えて人・本・情報が出会う場として活用します。また、学びの成果を発表・実践できる機会を確保するとともに、人権の尊重と相互理解の心を育みます。
- 船迫窯跡や旧藏内邸庭園、豊前神楽など、先人から受け継いだ歴史・伝統・文化を守り、見学・体験・発信の機会を整えます。学校と地域がともに子どもを育てる学びを通じて、子どもたちが郷土の魅力に気づき、住民とともにまちへの誇りと愛着(シビックプライド)を醸成します。

基本目標3 あんしん

ともに支え、ともに守る。地域の絆と備えにより、しなやかで強い安心のまち

- 自治会をはじめとする地域コミュニティは、安心な暮らしを支える土台です。さまざまな人が活躍し交流できる場づくりと、地域活動の担い手となる人材の育成を進め、世代を超えて支え合う地域の絆を育てます。
- 全国的に自然災害が頻発する中、自助・共助・公助それぞれの取組を推進し、災害に強い地域づくりを進めます。地域コミュニティと連携した防災訓練や自主防災組織の活動、避難行動要支援者の見守りを支えるとともに、地域の実情に応じた持続可能な消防団の体制づくりにより、消防・防災活動を維持します。また、老朽化したインフラの計画的な更新・耐震化や、消防・警察・自衛隊・福祉関係団体との平常時からの連携により、災害や緊急時に備えます。
- 航空自衛隊築城基地が所在する「基地のあるまち」として、住民の生活環境を最優先に、住宅防音をはじめとする基地関連事業を国等と連携して進めます。また、交流の機会など基地のあるまちならではの魅力の創出・発信にも取り組みます。

基本目標4 しごと

地域の資源と人の力を生かし、誰もが活躍でき、稼ぎ・循環する経済が根付くまち

- 農林水産業では、ほ場整備による農地の集積・集約化や経営力の強化、6次産業化を推進し、少ない担い手でも効率的に営める生産体制を整えます。あわせて、新規就農の支援、農福連携による多様な人材の活躍、スマート農業をはじめとする新技術の導入を通じて担い手不足の解消に取り組み、生産性と所得の向上を図ります。さらに、全国に誇る資源循環型農業や液肥の活用など本町ならではの取組を推進し、環境と調和した持続可能な農林水産業を推進します。
- 本町には、海・里・山が調和した豊かな自然や農地、歴史・文化遺産など、多様な地域資源があります。これらを生かして、若い世代が町内で希望する仕事を選べ、元気な高齢者も経験や知識を生かして活躍できるよう、多様な雇用の創出と所得の向上を図ります。あわせて、意欲ある人が安心して挑戦できる環境づくりに取り組みます。
- 企業誘致や既存企業の承継支援、地元事業者の創業支援を進めるとともに、観光資源の磨き上げや情報発信の強化により交流人口の拡大を図り、地域経済の活性化につなげます。

基本目標5 まち

豊かな自然と暮らしが調和し、コンパクトで住みやすいまち

- 人口減少やインフラの老朽化に対応するため、生活拠点の機能強化や買い物・生活サービスの確保を進めます。あわせて、増加する空き家の発生抑制・適正な管理・利活用に取り組み、安全で良好な住環境を守るとともに、移住・定住の促進につなげながら、将来を見据えた持続可能で暮らしやすいまちづくりを進めます。
- 暮らしを支える社会基盤として、上下水道は地域の実情に応じて効率的な処理・供給の仕組みを適切に組み合わせ、持続可能な維持を図ります。また、道路ネットワークの維持と、デマンド交通の導入・活用を含めた公共交通の利便性向上により、人々の交流と移動を支えます。利用者のニーズに応じた効率的な交通の仕組みをデータに基づいて検討し、持続可能で効率的な交通体系の構築を進めます。
- 豊かな自然と暮らしの調和を守り育て、保全と活用のバランスを重視した環境づくりに取り組みます。ごみの削減と資源化を進め、「ゼロカーボンシティ宣言」に基づき、再生可能エネルギーの導入や公共施設の省エネルギー化を推進し、循環型の地域社会を目指します。

基本目標6 きばん

開かれた行政と住民、地域の多様な主体が対話し、ともにつくる持続可能なまち

- 直面する人口減少社会の到来を正面から受け止め、人口が減っても安心して住み続けられる持続可能なまちづくりを進めます。住民と行政がともに担う「協働」の体制のもと、対話を重ねながら、住民が自ら担えることと行政が担うべきことを具体化し、地域全体で課題を解決するまちを目指します。
- 人口減少を前提に、地域資源やサービスを賢く集約・再編しながら、住民のウェルビーイングを持続的に高めていく「スマートシュリンク」の考え方のもと、事業の見直しや公共施設の適正化を進めます。行政評価を活用して施策の効果を検証し、メリハリをつけながら、限られた行政資源を優先度の高い分野へ重点的に振り向けます。
- ICT・AI等による業務の効率化を進めて人手不足を補い、誰にでも優しいDXを推進します。また、近隣自治体との広域連携も生かしながら、効率性と持続可能性を両立した行政経営を目指します。

2. 施策体系イメージ

町の将来像 みんなの挑戦が 幸福の好循環を 生むまち 築上町	基本目標	分野
	【くらし】 地域のつながりの中で、子どもを育み、誰もが笑顔で自分らしく暮らし続けられるまち	健康づくり、子育て、高齢者福祉、障がい者福祉、地域福祉
	【まなび】 子どもから大人まで学び続けられる環境の中で、互いに認め合い、地域への誇りを育てるまち	教育、歴史・芸術文化、生涯学習・スポーツ、人権・多様性の尊重
	【あんしん】 ともに支え、ともに守る。地域の絆と備えにより、しなやかで強い安心のまち	暮らしの安全、基地との共生、地域自治・コミュニティ
	【しごと】 地域の資源と人の力を生かし、誰もが活躍でき、稼ぎ・循環する経済が根付くまち	農林水産業、商工業、観光業
	【まち】 豊かな自然と暮らしが調和し、コンパクトで住みやすいまち	都市基盤、上下水道、環境
	【きばん】 開かれた行政と住民、地域の多様な主体が対話し、ともにつくる持続可能なまち	住民参画・協働、行政経営、広域連携

○基本構想案の検討経緯について

第3次総合計画の基本構想案について、以下の過程を踏んで検討を行っているところです。

基本構想策定までのスケジュール



■ 成果物の歩み（素材 → 案 → 修正 → 合意形成）

将来像：素材集め → 3案（4月叩き） → 住民WS・町長ヒアリングで〈既存3案を修正 + 新2案〉 = 5案 → 6/18で1案に合意形成

基本目標：素材集め → 案（4月叩き） → 4月推進本部会議の意見で修正 → 6/18で合意形成

施策体系：素材集め → 案（4月叩き） → （基本的な意見なく4月から変更なし） → 6/18で合意形成

将来像案につながる意見を聴取

職員研修後アンケートの整理結果

STEP 1 | R8.1 職員研修後アンケート

設問	主な意見内容
①10年後にめざす 築上町の姿	・人口減少を前提条件として受け入れ、生活水準や生産機能を維持する「過疎ではない状態」を維持する。 ・行政の補助金に頼らず、地域資源（農業・歴史遺産・観光等）をビジネス化し、町内でお金が回る「稼ぐ力」を確立する。 ・住民が町に誇りを持ち、世代を超えた交流と役割がある、幸福度の高い持続可能な暮らしを実現する。
②今後の築上町の あり方	・ハコモノ建設を抑制し、施設の統廃合や既存事業の抜本的見直し（スクラップ・アンド・ビルド）を断行する。 ・行政が全てを抱え込むのではなく、住民の自立や地域運営組織（RMO）の活動を背後から支える伴走者・サポート役に転換する。 ・厳しい財政やインフラの現状を住民に正直に伝え、対話を通じて共に解決策を考える意識改革を促進する。
③その他	・部署間の縦割りを打破し、全庁一丸となって地域課題に横断的に取り組む体制を構築する。 ・DX推進や徹底した業務の棚卸しにより事務を効率化し、未来の企画に注力できる「時間と余白」を創出する。 ・若手や意欲ある職員の挑戦を後押しし、年齢に関わらず能力や専門性を正に評価する組織風土を醸成する。

基本目標ごとの将来像案の検討

職員ワークショップの検討結果

STEP 1 | R8.3 職員ワークショップ

基本目標	グループワーク検討結果	キーワード	
くらし	○住んでみたい、住み続けたい、 ウェルビーイングな ○子供から大人まで 幸せを感じるまち	✓ すべての人が安心して幸せを感じながら生活できる ✓ 子育てを町ぐるみで支援する ✓ あらゆる年代の方が自分の求める形で社会参画ができる	✓ 安心・安全に暮らせる ✓ 主観的幸福感（ウェルビーイング） ✓ 子供から大人までの幸福感向上 ✓ 自他を尊重する意識の醸成によるあたたかい町づくり
まなび	○子どもから高齢者まで全ての人が いろいろな学びができる町 ○多様な学びが経験できるまち	✓ 自分にあった学びの場が選択できる ✓ 学ぶことの楽しさを実感できる機会の確保 ✓ 多様な生き方を学べる	✓ 充実した学びの場 ✓ 郷土愛を醸成する
あんしん	○明るくきれいな安全・安心できるまち ○最小限の維持管理で災害に強く 安心・安全に暮らせるまちづくり	✓ 明るくきれいで災害時も安心できるまち ✓ やすらぎと安全・安心のまちづくり ✓ 明るくきれいな安全・安心できるまち ✓ コンパクトシティを実現する	✓ 災害に強く安心して住み続けられるまちづくり ✓ 最小限の維持管理 ✓ 皆が安心・安全に暮らせるまちづくり
しごと	○住民と行政がともに価値を 作り出す自律した町 ○まちの資源をいかした産業のまち	✓ 雇用の確保 ✓ 農林水産業 ✓ 住民と行政がともに価値を作り出す自律したまち ✓ 産業のまち	✓ 町の現状から一次産業が最も多いので人材確保と所得の保証が重要 ✓ 農林水産業の所得向上を目指す ✓ まちの資源
まち	○コンパクトでスマートなまちづくり ○コンパクトタウンで快適な新たな 住みよいまちづくり	✓ 生活基盤を充実図るまち ✓ スマートシュリンク（賢く縮む）なまちづくり ✓ 活力とにぎわいがある笑顔あふれるまちづくり ✓ 生産性向上するための農業・漁業・産業のICTインフラ整備	✓ コンパクトでスマートなまちづくり ✓ デマンドタクシーの進化 ✓ 施設の統廃合 ✓ コンパクトで快適なまち ✓ コンパクトにつながる住みよいまちづくり
きばん	○住民と行政が協同し、 持続可能なまちづくり ○住民満足度が高く持続可能で 自立可能なまちづくり	✓ 住民と行政が協同し、持続可能なまちづくり ✓ 女性も男性もともに活躍できるまちづくり ✓ 学校を単なる建物ではなく、ヒト・モノが集まる基盤	✓ 将来を見据えた持続可能なまちづくり ✓ 住民満足度の高いまち ✓ 持続可能で自立可能なまちづくり

住民ワークショップ（将来像の検討）

STEP 2 | R8.4 住民ワークショップ

項目	くらし	まなび	あんしん	しごと	まち	きばん	将来像
1 班	<u>みんなで</u> ・共生社会 （若者、子ども、 障がい者、高齢 者）	<u>挑戦する</u> ・町独自の取組 ・文化の継承 ・学校と地域の繋 がり	<u>明るいまち</u> ・安心 ・防犯 ・子どもの安全	<u>住みやすく</u> ・災害に強い ・産業の誘致 ・IT ・空家バンク活用 ・誘致	<u>交通手段の整備</u> ・交通基盤の整備 ・道路の整備 ・交通手段の充実、 支援	<u>住民と一緒に</u> ・住民の意見を聞く	みんなで挑戦する住 みやすく、明るいまち “築上町”
2 班	<u>チャレンジしよう</u> <u>ひとりひとりの色</u> <u>が輝く</u> ・選ばれるまち	<u>カラフル</u> ・特色ある教育	<u>つながり、つなが る</u> ・支え合いのまち ・見守りがあるまち ・つながりのあるまち	<u>えらばれる</u> ・稼げるまち	<u>いろんな花を咲か せよう</u> ・あかぬけたまち	<u>生きがい</u> ・便利でやさしいま ち	カラフル、つながる、 えらばれる ～個性が輝く築上町 ～
3 班	<u>笑顔</u> ・笑顔になれる街 ・豊かな街 ・自動運転	<u>イサツヨーネ</u> ・住みたい町 ・祭り、文化の継承	<u>絆</u> ・絆でつくる街 ・コンパクトシティ	<u>築上町推し！</u> ・個人企業の拡大 と充実 ・築上の極上の特 産物		<u>幸せ</u> ・ご近所付き合い ・世界一幸せにな れるまち ・幸せになれるまち ・声が届くまち	イサツヨーネ♡ 笑って100歳 築上町

共通項

連携：みんなで・一緒に、つながる、絆と、連携やを示す用語が多く採用されている。

挑戦：2つの班でフレーズに選ばれている。

個性：住民それぞれの個性と、築上町の特性という意味で、個性を大事にしようという意見がでている。

○晴れやか・笑顔

- ✓ 「10年後も普通の生活で笑顔になれるまち」
- ✓ いろんな交流を経て、すべての世代が笑顔でいる。
- ✓ 晴れた日の晴れやかなイメージで、いろんな人がいて、活気があるイメージ。

○シビックプライド（住民愛着度向上）

- ✓ 築上町を選んでもらうにはシビックプライドなど、ふとした瞬間に住んでいてよかった、選んでよかったと思ってもらうこと（転出をしない）が大事。
- ✓ 町にとって、住んでいると文化施設や天然記念物などは、あって当然のものではあるが、他と比べて自慢できることも多い。

○挑戦

- ✓ 「挑戦」は行政も必要になってくる。行政だけが挑戦するには限界があるので、町の住人も含めて挑戦することが必要になってくる。

- ✓ **晴れやか・笑顔**：10年後の築上町のイメージとして強調された表現です。
- ✓ **シビックプライド**：町にとって当たり前のことでも、他の町と比べて誇れることがある、と意見いただきました。
- ✓ **挑戦**：町長が将来像に入りたいワードとして挙げられました。

将来像案選定（検討過程を踏まえ事務局が作成した 5 案から 1 案へ庁議構成員による絞り込み）

STEP 3 | R8.6 選定

将来像案 5案の得票（回答 20名）

A 豊かな自然と地域の絆を次世代へ 笑顔と幸せがつながるまち
1票

B ★最多 みんなの挑戦が、幸福の好循環を生むまち 築上町
8票

C 自然と人のぬくもりの中で、笑顔かがやくまち 築上町
3票

D つながる つくる 幸せ育むまち 築上町
3票

E きづく きずく 築上町 ～魅力に気づき、未来を築く～
5票

★ 選定 = B案（最多 8票）

「みんなの挑戦が、幸福の好循環を生むまち 築上町」

→ 6/18 推進本部会議で意見を反映し、合意形成へ

主な意見

【選定理由（案別）】

- ・A案：第2次総合計画からの連続性を重視
- ・B案：町長の掲げる「挑戦」とウェルビーイングに合致。
住民・地域等とともに挑戦し好循環を生む新体制にふさわしい。
人口減少など厳しい環境にあるなかで、とてもアグレッシブな印象
- ・C案：自然と人のつながりを表現。10年後も「住んでよかった」と思える
- ・D案：人・世代・地域のつながり、歴史や祭りの継承を重視
- ・E案：「きづく・きずく」が町名「築」に通じ、独自性・記憶性が高い

【全体・自由意見】

- ・A～D案は他自治体にも当てはまる表現が多く、より独自性を求める声
- ・子育て世代に偏らず、高齢者・単身世帯など誰もが笑顔になれる視点を
- ・住民・地域・行政のネットワーク（連携）の視点も盛り込みたい